

国内最大級となるドーム状の砲台跡が南あわじ市で見つかった。

「門崎砲台」と名前がついているが、仮の名前でしょう。

南あわじ市は道の駅「うずしお」の改築に伴い、南あわじ市教育委員会が今年3月から発掘調査を進める過程で、砲台と弾薬庫が発掘されました。これは1899年に旧日本陸軍が建設した砲台には口径24センチの大砲2門などが設置され、長さが約14メートル、幅が推定26メートルと解説する。



防御目的で大砲周囲をドーム状に覆う「穹窿（きゅうこう）砲台」としては国内最大級。

門崎砲台は、淡路島内の別の2砲台などと併せて瀬戸内海への敵艦侵入を防ぐ「鳴門要塞」を構成。日露戦争開戦（明治37年）前の明治32年に完成した。

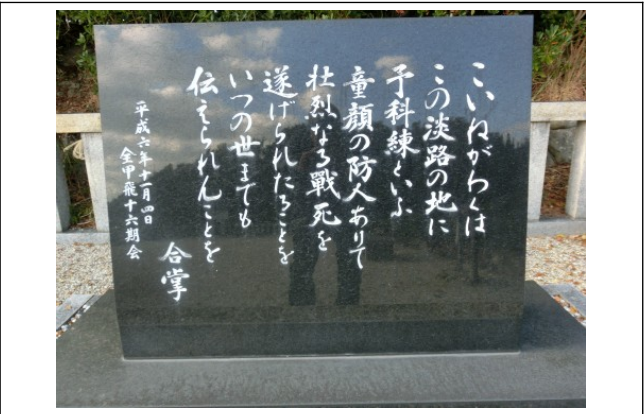
砲台の保存を求める署名活動も起きているらしい。

淡路島では戦争にまつわる遺跡や悲劇話が多いですね。

### **宝塚海軍航空隊予科練習生の戦没慰霊、慈母観音像が南淡路市阿那賀**

1945（昭和20）年8月2日、14～17歳ごろの練習生らを乗せた住吉丸は、鳴門要塞の工事のため現在の徳島県鳴門市から阿那賀へ出港。正午すぎ、米艦載機の機銃掃射を受け、練習生76人を含む82人が亡くなった。

阿那賀の住民らは遺体を春日寺に運んで手厚く供養。最期に母を呼ぶ練習生もいたことから、墓地近くには約50年前、慈母観音像が建立された。



若人の広場公園、太平洋戦争中で戦没した学徒たち若人を追悼する施設



太平洋戦争当時、400万人の男女学徒（14歳-22歳）が様々な軍需工場  
で生産に従事、あるいは武器を手に戦地へ出陣。

そのうち、約20万人余の生徒が亡くなりました。

若人の広場は、若者の意志や戦争の悲惨さを後世に伝え、恒久平和を願  
い誓う施設として昭和42年（1967年）に建設されました。

## 由良要塞

由良要塞は、東京湾要塞・下関要塞と並ぶ陸軍の一等要塞として、明治  
22年（1889）に築城が開始されました。大阪湾に敵艦の進入を許すこ  
とは、京阪神の壊滅を意味するため、紀淡海峡の防衛は東京湾に次いで  
重要視されました。明治36年（1903）には、鳴門要塞が由良要塞に編  
入され、明治39年（1906）には、由良要塞全砲台が完成しています。  
明治政府は京阪神につながる紀淡海峡を重視し、近代要塞の建設を決定。  
高崎台場・高崎砲台、六本松台場、由良城（成山城）・成山砲台  
国の威信をかけて築かれた要塞も、第一次世界大戦後は主戦場が空に移  
り、一度も実戦のないまま終戦を迎えました。

終戦後に要塞は米軍に破壊されたが、砲台や観測所などの跡は今も山  
中にあり、観光客らが訪れている。





突然出てきたニュースに驚きがあって、門崎砲台だけでなく忌まわしい戦争に対する市民は感傷的になるのは仕方ありません。

話題に便じてドヤ顔するけれど、砲台跡は「道の駅」改修前に文化財調査すべき遺跡に指定されていたというのだから、失敗して行政をPRしているようなもの。

松帆銅鐸にしても、建設残土を埋めるめために掘った砂の中から出たのである。掘っているときに見つかったというのではなく、野ざらししていたら雨で砂の中から出てきたもので、松帆地区のどこから出たのも不明である。

砂地に埋まっていた出所がわからんものを、国宝級だというのを見ても、行政を何だと考えているのだろうかと思ってしまう。